

タイトル	蔦性植物を活用した工芸品ブランド作り	
概要	ヤマブドウ、ヒロロ、マタタビ等の蔦性植物を工芸品材料に活用する。	
管理方法・技術的視点	<p>山間地降雪期の手仕事として伝統的に受け継がれてきた蔦性植物資材による民具づくりのノウハウを山間地域ブランド工芸品開発に利用する試み。材料の採取方法から製作まで里山環境に配慮しながら行っている。次のような資源特性を利用している。</p> <p>(1)ヒロロ： 奥山の沢沿いの湿地に自生するスゲで、ホンヒロロ(ミヤマカンスゲ)、ウバヒロロ(オクノカンスゲ)の2種類あり、繊維が強く軽量で柔らかいため縄を細く縋うのに適している。レース細工のような繊細な仕上がりを特徴とする。</p> <p>(2)ヤマブドウ： 栗の花の咲く6月ごろに採取し、一枚皮が原料とされる。強靱で用途によって編み方も異なり手提げ籠、抱え籠、菓子器などに利用。</p> <p>(3)マタタビ： 1本のつるから伸びる肉厚の成熟した枝を材料とし、ざる等炊事用品に用いられる。水切れがよく水分を含む材料はしなやかさを持っている。</p>	
備考	<p>昭和56年三島町振興計画の重点施策として「生活工芸運動」がスタート。地元で採れる天然素材を用いて昔から伝わる技術技法を使い、楽しみながら取り組みを進めてきた。昭和61年生活工芸館が完成し、平成13年には生活工芸運動友の会が結成、平成15年には経済産業大臣指定伝統工芸品に指定された。</p>	<p>奥会津編み組細工の実演</p> 
場所・主体	福島県三島町・三島生活工芸館	
URL等	http://www.jafta.or.jp/13_sanson_hp/jirei/mori-yama/jirei5-1.html	